

## 鹿児島県

### 1. 商品名等

商品名	だっきしよ <sup>もなか</sup> 最中		
商品写真(イメージ等)		商品説明(コンセプト等)	
		<p>鹿児島(鹿屋)は、落花生の生産が盛んです。落花生を鹿児島弁で「だっきしよ」と言います。だっきしよ最中は、落花生の食感が残るように「ピーナツ」を餡に混ぜ込んだ、落花生の形をした最中です。今回、「薩摩菓子所 富久屋」様の協力をいただき、「だっきしよ<sup>もなか</sup>最中」の令和版アレンジを行いました。落花生の収穫実習やレシピの提案、イラスト作成ソフトを使ったパッケージデザインや梱包作業、販売実習や会計処理を実践しました。</p>	

### 2. 学校紹介

学校名	鹿屋市立鹿屋女子高等学校	電話	0994-43-2584
住所	鹿児島県鹿屋市西原1丁目24番35号	FAX	0994-43-2585
担当者	新留 崇夫		
URL	<a href="https://kanoyaghs.com/">https://kanoyaghs.com/</a>		
E-mail			

鹿屋女子高校は、鹿児島県大隅地区唯一の市立女子高等学校として昭和33年に開校しました。現在、普通科・情報ビジネス科・生活科学科が設置されています。情報ビジネス科は、資格取得とキャリア教育に取り組んでいます。卒業生の全商3種目1級取得率は約80%であり、平成25年から5年連続で全商9冠日本一となりました。また、キッズチャレンジフェスタやキッズビジネスタウン®などの小学生を対象にした地域貢献活動を行っています。令和2年3月には新校舎が完成し、部室棟やテニスコート、グラウンドも整備されました。ICT環境は県内トップクラスを備えており、平成27年には電子黒板やタブレット端末を活用した授業が展開されています。「総合選択制」の授業も特色であり、教科・学科の垣根を越えて、自分が学びたいものを学べる学習環境が整っています。

### 3. 実施科目等

科目名	課題研究(商品開発班)	単位数	2単位
対象生徒	9名	担当教員数	1名

### 4. 予算関係(費用)

- ・収穫実習の交通費(15,000円)
- ・商品パッケージの作成費用(50,000円)

※ 予算は、鹿児島県商の「令和5年度 商業の教育活動支援事業【活動支援事業】」を活用

## 5. 開発経緯等

本校は、課題研究（家庭科と合同：2単位）と課題研究（商業科単独：2単位）を編成しています。課題研究（商業科単独）は、全商校長会秋季総会の鹿児島県開催にあたり、同会での販売を期日目標として商品開発を行いました。



パッケージデザイン



商品企画

鹿児島（鹿屋）の特産品である落花生の和菓子「だっきしょ最中」は、昔ながらの味として年配の方に好評を博しています。今回、観光客やファミリー層をターゲットとして、令和版アレンジを試みました。また、鹿児島は全国を代表する農業県であり、農業の六次産業化を意識して、「生産」「製造」「加工」「流通」「販売」を体系的に学習するカリキュラムを実践しました。



落花生収穫実習

### 開発スケジュール

- 令和5年4月 商品開発の協力企業の検討・決定
- 〃 日本観光学会と商品開発カリキュラムの検討
- 5月 市場分析、商品企画、講演会
- 6月 商品（レシピ）検討・提案
- 〃 パッケージデザインの検討・制作
- 8月 パッケージデザインの制作・完成
- 9月 POP広告作成、落花生収穫実習
- 10月 販売開始（全商校長会 秋季総会にて委託販売）



委託販売

## 6. 販売形態・期間

④ ・ 無	薩摩菓子所 富久屋	「本店」「リナシティかのや観光物産コーナー」 「鹿屋市観光物産センター」「かのやバラ園」	受注販売
-------------	-----------	-------------------------------------------------	------

## 7. 協力者等

④ ・ 無	薩摩菓子所 富久屋
-------------	-----------

## 8. 商標登録の有無

有 ・ 無	— — —
-------------	-------

## 9. 今後の課題・展望等

農業の六次産業化を意識した商品開発は、開発工程が長くなります。また、「新商品開発」や「既存商品の改良」の目標により開発スキームが変わります。定期的に、企業・行政・学会・学校によるカリキュラム内容の検討が必要です。

今回の商品開発は、課題研究における「調査・研究・実験」の指導項目のため、パフォーマンス課題やルーブリック評価、ポートフォリオや報告書など、丁寧に指導することができました。しかし、学習指導要領の段階的移行期のため、学習評価については他商業科目を参考に行っています。課題研究では教師の設定した学習目標を超える生徒も多く、学習評価法が課題となります。